

自然に触れ合う楽しさも体験
アジア・アフリカ支援米
稲刈りを実施

10月18日(土)夏場を思わせる日差しが降り注ぐ中、天候にも恵まれ、連合愛媛「アジア・アフリカ支援米」の稲刈りを実施しました。

この活動は、飢餓や食糧不足に苦しむアジア・アフリカの子どものための支援として毎年取り組んでいるものであり、6月の田植えは中止となりましたが、地権者の協力を経て、組合員さんとその家族など43名が集まり、稲刈りを行いました。

開会式・注意事項の周知を行ったあと、参加者は稲刈り鎌を持ち作業を開始しました。初めて体験する子どもたちも多く、農業の労苦を味わいながらも、途中バックヤトカゲに興味を示し追いかけるなど、存分に自然に触れ合い楽しい時間を過ごすことができました。

万全な田んぼの管理でお米を実らせていただいた地権者の方、ならびに本活動の準備・運営を頂いた全農林労組愛媛分会の役員の皆さんに感謝申し上げます。

なお、刈り取りした支援米は、12月に発送する予定です。

フェーズⅡに向け
取り組みの展開を

連合四国ブロック2025「組織拡大担当者会議」

10月1日(水)サウスブリーズホテル高知海月において、連合四国ブロック2025「組織拡大担当者会議」が開催され、四国四県から組織拡大担当、相談員などが参加し、連合愛媛からは寺田・金並副事務局長ならびに濱中組合づくり相談員の3名が参加しました。

会議に先立ち、連合本部畠山組織拡大局長は挨拶で、2026～2027年度運動方針(案)における最重点の取り組みとして位置付けた組織拡大・組織強化について、「組合員が減少する中、連合が一体となり、2030年をめざして取り組みを前進させたい。本部としても四国ブロック全体での底上げを支援していく」との決意が述べられました。

続いて、連合「組織拡大プラン2030」のフェーズⅠ(2020年10月～2025年9月)における主な課題と成果の総括と、フェーズⅡ(2025年10月～2030年9月)に向けて、①拡大実績の上積み、②組合員の減少に歯止めをかける、③人財を含む体制の強化——の3つを柱に取り組みを展開することとし、11月28日(金)に開催予定の第96回中央員会での提起・承認をめざし、検討を進めるとの説明がありました。

その後、各県から取り組み内容、実績などの報告が行われ、意見交換では、中央会費制度、地域ゼネラル連合における組織の扱い等について本部の見解等で認識を合わせ、フェーズⅡに向けて、これまでの取り組みの継続と新たなチャレンジにより組織拡大を進めていくことを全体で確認し、会議を終了しました。

「女性参画推進の取り組み」
について情報交換

第8回構成組織「地方連合会女性代表者会議」

9月29日(月)連合会館2階大会議室において「地方連合会女性代表者会議」が開催されました。

はじめに本部から、本年4月に実施した「構成組織、地方連合における女性の労働組合への参画に関する調査」に関する概要版の説明があり、「チェンジ!達成目標・チャレンジ!推進目標では、多くの構成組織、地方連合とも、昨年より意思決定機関への女性参画およびジェンダー推進が進んでいる中、引き続き組合員数の調査等と合わせ男女比率の確認を進めていただきたい」との提起がされました。

次に、連合版「ジェンダー監査」ツールについて、改正内容と活用の趣旨について説明があり、①各組織の男女平等参画・ジェンダー平等推進に係る日々の取り組みの評価、②改善していくための自己診断ツールとしての活用、③各組織のジェンダー平等推進の可視化と取り組み内容の明確化——について説明がありました。

情報交換では、フード連合中野社会政策局長から女性参画推進の取り組みについて、「役員体制ではクォータ制を導入し、意思決定機関の女性参画比率33.3%となり、女性参画向上につながっている」との報告がありました。また、連合広島藤原女性委員会委員長からは、女性参画率向上に向けて、「女性参加率28.35%を目標に取り組むも、直近の定期大会の参加率は23.9%にとどまった。ただ、学習会やセミナー等は目標を達成した」とことについての紹介があり、参加者全体で共有することができました。

投球ごとに一喜一憂
産別交流ふれあい
ボウリング大会

連合愛媛中予・今治地域協議会中予支部は9月28日(日)キスケ(KIT)において「産別交流ふれあいボウリング大会」を開催しました。13の構成組織52名と地域支部役員9名が参加し、投球ごとに一喜一憂の歓声が沸き起こるなど楽しい雰囲気の中、懇親を深めながら熱戦が繰り広げられました。

結果は、団体の部では伊予鉄労組Bチームが、個人の部では大森優也さん(伊予鉄労組)がそれぞれ優勝し、全体で記念撮影を行うなど産別を超えた交流につながり、大会を終了しました。

〈団体の部〉	優勝	伊予鉄労組(チーム名:チームB)
	準優勝	FUJIユニオン(チーム名:チームFUJI)
	3位	コスモ松山石油労組(チーム名:JEC連合)
〈個人の部〉	優勝	大森 優也(伊予鉄労組)
	準優勝	紀井 崇宏(FUJIユニオン)
	3位	宮田 浩明(コスモ松山石油労組)



はたらくのそばで
ともに歩もう

11月は過労死等防止啓発月間

実現しよう!
過労死等0

連合

休み方見直しの3つのポイント

「こころ」と「からだ」のバランスを整えるためには、
豊かな生活時間の確保が重要です!

1 十分な休息時間
十分な睡眠時間と生活時間を確保しましょう。最低6時間以上の睡眠を取り、仕事から解放された生活時間の確保が大切です。

2 定期的な休日
長期の連続勤務は健康リスクを増大させます。【毎週最低1回の休日】を原則に、定期的な休日を確保することで疲労の蓄積を防ぎましょう。

3 積極的な年休取得
年休取得日の設定や時間単位・半日単位での取得など、企業と労働組合は取得を促すため制度・環境整備に取り組みましょう。また労働者も積極的・計画的に休暇を取得しましょう。